

令和3年9月吉日

各 位

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
交流企画部会長 嶽崎俊郎

国際島嶼教育研究センター第213回研究会のご案内

国際島嶼教育研究センター第213回研究会を下記のとおり開催いたします。皆様方の多数のご参加を心よりお待ち申し上げます。

記

日 時：令和3年10月4日（月）16時30分～18時
会 場：総合教育研究棟5階 国際島嶼教育研究センター会議室
（〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21-24）
中 継：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室
（〒894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町15-1 奄美群島大島紬会館6階）
WE B：Zoom
参加費：無料（通信費は参加者負担）

隆起サンゴ礁の島 喜界島におけるサンゴ礁を通じた 研究・教育プラットフォームの構築

駒越太郎（喜界島サンゴ礁科学研究所）

奄美群島喜界島は過去約10万年前より海水準の変動と島の隆起によってサンゴ礁が離水しサンゴ礁段丘という地形がよく発達している。地質的にも地域の暮らしとサンゴ礁が密接に関わっている地域の一つである。そんな喜界島を拠点に喜界島サンゴ礁科学研究所は2014年から活動を開始した。現在まで多くの研究者や地域の方々に支えられ、サンゴ礁と社会を結ぶプラットフォームとしての役割を目指し、活動7年目を迎え研究所では「研究」「教育」「普及」を3本柱として「喜界島・海・サンゴ・サイエンスに関わる全ての人をつなげる活動」を続けている。

サンゴ礁というフィールドは、理系・文系を隔てず多くの学問分野、さらには芸術アートの分野まで多様な人々が集まる。このフィールドの特性を活かして、喜界島サンゴ礁科学研究所では、サンゴ礁科学を中心に多分野の研究を融合させ地域の過去、現在未来を考える研究プロジェクト「MIRAIプロジェクト」、そして、小学生～大学生・社会人を対象としたサンゴ礁における研究教育プログラム「KIKAI College」を展開している。

発表者の研究活動としてはこれまで、二枚貝の殻やサンゴの骨格を形成する炭酸カルシウムの酸素・炭素同位体比・微量元素の分析と骨格に刻まれる成長線の解析を通して、現在から過去の海洋環境を推定する研究を行ってきた。現在、フィールド滞在型の研究員として、これまでの地球化学分析に加え、現地だからこそできる地域と協働したサンゴ礁の調査や海洋観測を進めている。

今回の研究会では、喜界島における研究活動と、そこから生まれたアウトリーチ活動について紹介する。

【対面式でのご参加（要登録・人数制限あり）】

新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、ご自身の体調を十分お考えのうえ、ご参加ください。また、ご参加いただく際には、マスク着用等、感染防止にご協力ください。センター会議室は先着15名様、奄美分室は先着9名様とします。

対面式でのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールまたは電話にて9月30日（木）までにお知らせください。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、対面式を中止する場合もございますのでご了承ください。

お名前（必須）：

お電話番号（必須）：

ご所属先：

ご住所：

メールアドレス：

メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きのうえ、メールアドレスも必ず記入してください。

【オンライン（Zoom）でのご参加（要登録）】

インターネット環境とパソコン、スマートフォン、タブレット等があれば、ご自宅やオフィスからご気軽にご視聴いただけます。通信費は参加者負担となります。

オンラインでのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールにて9月30日（木）までにご連絡ください。Zoomの視聴方法については、参加登録後に届く、登録確認メールをご覧ください。

お名前（必須）：

メールアドレス（必須）：

ご所属先：

ご住所：

メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きください。

【ご連絡先】

対面式（申込期限：9月30日（木））

センター会議室：shimaken@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 099-285-7394（担当：西）

奄美分室：amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 0997-69-4852（担当：生）

オンライン（Zoom）（申込期限：9月30日（木））

sotayama@cpi.kagoshima-u.ac.jp（担当：山本）

（なお、対面式後の懇親会は、当面の間、開催いたしません）